

2年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	じゅんばんに ならぼう 1時間（話・聞①） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技①ア） ○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。（思・判・表A①エ） ■出された課題に応じて、声をかけ合いながら順番に並ぶ。	1	1 1年間の国語の学習の見通しをもつ。 ・扉の詩を音読したり、目次やP5「こくごの学びを見わたそう」を見たりして、上巻の学習への期待感や見通しをもつ。 2 「じゅんばんにならぼう」のやり方を知る。 ・どんな順番で並ぶのか、説明をしっかり聞いて理解する。 3 教師の話を聞いて、実際に並ぶ。 ・何の順番で並ぶのか確認する。 ・自分の場所を見つけるためには、どのような声のかけ合いをすればよいか相談する。 4 正しい順番に並べたかを確かめ、感想を交流する。 ・「もっととのしもう」を参考に、さらにさまざまなか順番で並びこしを進めてみる。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（①ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。（①エ） 【態】自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き取り、学習課題に沿って声をかけ合い、正しい順番で並ぼうとしている。
4月	絵を見て かこう つづけて みよう 1時間（書①） ○第1学年に配当されている漢字を文章の中で使うことができる。（知・技①エ） ○想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができます。（思・判・表B①ア） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。（思・判・表B①オ） ■絵に描かれた様子を文章に書く。	1	1 絵を見て気づいたことを発表し合う。 2 絵から分かることを確かめる。 ・どこで ・どんな人が ・どんなことをしているか 3 どの部分の様子を書くかを決め、教科書の例文を参考にして文章にする。 ・1年生で学習した漢字を使って書く。 4 友達と文章を読み合って感想を伝える。 5 P18「つづけてみよう」を読み、年間を通してひと言日記に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を文章の中で使っている。（①エ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（①ア） ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。（①オ） 【態】絵の中から進んで書くことを見つけ、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
4月	どんな おはなしかを たしかめて、音読しよう ふきのとう 9時間（読⑨） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができます。（知・技①オ） ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C①イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技①ク） ■音読を聞き合い、感想を伝え合う。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆音読の様子を撮影し、見せ合う活動（ICT活用）	1～2 3～5 6 7～8 9	1 学習の見通しをもつ。 ・P19を見て、どのような物語かを想像する。 ・音読して「おもしろいな。」と思ったところを見つけ、友達と比べる。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 お話の大体を考えながら繰り返し音読する。 3 登場人物とその行動について確かめる。 4 「ふきのとう」が顔を出せた理由や、会話文の音読のしかたについて考える。 5 おもしろいと思ったところを、様子が伝わるように音読し、互いに聞き合い、感想を伝え合う。 6 グループで役割に分かれて音読発表を行い、感想を交流する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身についた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（①オ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（①ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C①イ） 【態】場面の様子を表す言葉を手がかりに粘り強く物語の内容を確かめ、これまでの学習をいかして音読を工夫し、感想を伝え合おうとしている。
4月	図書館たんけん 1時間（知・技①） ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができます。（知・技③エ） ■図書館の本の並べ方の決まりや工夫を見つけ、発表する。 ☆図書館で読みたい本を探し、本の分類を学ぶ教材（図書館活用） ☆書架の様子や本の並べ方の撮影（ICT活用）	1	1 図書館の本の並べ方の決まりや工夫を見つけるという学習課題をもつ。 2 図書館探検に行く。 ・本はどのような工夫をして並べてあるのか、各自で見て回り、気づいたことを共有する。 ・P34「読みたい本をさがすときは」を確認する。 3 P35で提示された本や、各自で見つけたい本を決めて、どこにあるのか予想して探す。 4 学習を振り返る。 ・自分の読みたい本を探すときに気をつけることをまとめて発表し合う。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（③エ） 【態】積極的に図書館の配架や本の並べ方を学び、学習課題に沿って自分の読みたい本を探そうとしている。
4月	春が いっぱい 2時間（書②） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技①ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができます。（知・技①オ） ○経験したことなどから書くことを見	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「はなが さいた」の詩を読む。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた春を感じるものを見つけて、名前、いつ、どこで見つけたか。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（①ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（①オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確

2年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、春のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆春らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動（音楽） ☆春を感じるもの撮影（ＩＣＴ活用）		4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。	かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
4月	思い出して 書こう 日記を 書こう 4時間（書④） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■身近な出来事を日記に書く。 ☆学校生活や家庭生活、身近な自然や季節の行事などに目を向けさせる題材（特別活動、生活科）	1 2 3 4	1 P18「つづけてみよう」で書いてきたひと言日記を紹介し合うなどして、学習の見通しをもつ。 2 日記例を基に、日記の書き方を確認する。 ・日付、曜日、天気 ・したこと（いつ・誰が・誰と・何を・どうした） ・見たこと、見つけたもの ・言ったこと、聞いたこと ・思ったこと 3 昨日のことやひと言日記から題材を決め、思い出したことを書き出す。 4 出来事の順序を思い出して日記を書く。 5 書いた日記を読み合い、学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】言葉には、経験したことを見える働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】進んで経験したことなどから伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
4月～5月	だいじな ことを おとさないように 聞こう ともだちは どこかな 【コラム】声の 出し方に 気を つけよう 5時間（話・聞⑤） ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■目的に応じて大事なことをメモしながら聞き取る。 ☆必要なことについて、身近な人と連絡し合う活動（学校生活）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・音声を聞いて、絵の中から「ゆかさん」を探す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 絵を見てどんな人がいるかを話し合う。 ・手がかりになりそうな言葉や事柄の予想を立てる。 3 話を聞くときに大事なことを考える。 4 絵の中から子どもを選んで友達探し合う。 ・P44コラム「声の出し方に気をつけよう」を参考に、分かりやすい話し方を練習する。 ・グループで相互に探し合いをする。探し役はメモを見せ合って協力してもよい。 5 探しやすい話し方や聞き方、メモの取り方を発表し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・P44のコラムで音の高さによる言葉の意味の違いを理解する。	【知・技】 ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。（A(1)エ） 【態】自分にとって必要なことを集中して粘り強く聞き取り、これまでの学習をいかして簡潔にメモしようとしている。
5月	じゅんじょに 気を つけて 読もう たんぽぽの ちえ 【じょうほう】じゅんじょ 10時間（知・技①、読⑨） ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■植物の知恵について書かれている文章を読み、感想を書く。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科）	1～2 3 4～5 6～7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・P45を見て、文章の内容を想像したり、たんぽぽについて知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 たんぽぽの知恵が幾つあるかを考えながら音読する。 ・知恵が幾つあるかを数えることで、何を知恵というかを確かめる。 3 たんぽぽが、いつどんな知恵を働かせているのかを捉える。 ・順序を表す言葉に着目して、たんぽぽの知恵を確かめる。 4 たんぽぽの知恵にはどんなわけがあるのか、文末表現に注意して読み取る。 5 感心したたんぽぽの知恵を選び、なぜそう思ったのか自分の考えを書く。 ・書いたものを友達と読み合い、同じだと思ったことを伝え合う。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） 【態】粘り強く時間的な順序を考えて内容を捉え、学習の見通しをもって読んだ文章の感想を書こうとしている。

2年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		9~10	<p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 <p>7 P55「じゅんじょ」を読み、説明するときの順序の種類や、効果を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの出来事や自分の行動などを、順序を考えながら話す。 	
5月	ていねいに かんさつして、きろくしよう かんさつ名人になろう 10時間（書⑩） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■観察したことを記録する文章を書く。 ☆育てている動植物を観察し、分かつたことなどを記録する活動（生活科） ☆身近な動植物の変化や成長の様子への関心を育む題材（道徳、生活科） ☆観察するものを撮影して記録する活動（ＩＣＴ活用）	1 2~8 9 10	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物や植物を育てた経験を振り返り、友達と話し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 観察するものを決め、見つけたことや気づいたことをメモして、書く順序を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P57「かんさつするときは」を参考にする。 ・観察して見つけたことや気づいたことを、メモを基に友達と尋ね合い、記録しておきたいことをどんな順序で書くか考える。 <p>3 メモを基に観察記録文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P59、60の作例を参考に観察記録文のイメージをもつとともに、記録文を書くときに必要なことを整理する。 ・読む人に伝わるように、書くこととその順序を再度確認したり、P60「かんさつしたことを書くときのことば」を参考にしたりする。 <p>4 書いた文章を友達と読み合い、よいところやよく分かる書き方について伝え合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p>【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（(B1)ア）</p> <p>【態】書くために必要な事柄を進んで集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、これまでの学習をいかして観察記録文を書こうとしている。</p>
6月	いなばの 白うさぎ 2時間（知・技②） ◎神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ■神話の読み聞かせを聞き、感想を伝え合う。 ☆郷土への愛着を養う題材（道徳） ☆昔話や神話の本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	1 2	<p>1 これまでに読んだり聞いたりした神話や昔話を紹介し合い、教材文に興味をもつ。</p> <p>2 描絵からお話の内容を想像し、読み聞かせを聞く。</p> <p>3 登場人物や出来事、お話の結末を確認し合い、おもしろかったことを伝え合う。</p> <p>4 P64「この本、読もう」を参考に、図書館で自分の住む地方に伝わる昔話や神話を探して読む。</p>	<p>【知・技】神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア）</p> <p>【態】進んで神話の読み聞かせを聞き、これまでの学習をいかして感想を伝え合おうとしている。</p>
6月	同じ ぶぶんを もつ かん字 2時間（知・技②） ◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1~2	<p>1 P65のイラストを基に、漢字の同じ部分を探し、漢字の意味やつながりについて、考えたことや思ったことを出し合う。</p> <p>2 P66の例文を音読したり視写したりして、同じ部分を見つけ、つながりを考える。</p> <p>3 P154「これまでにならったかん字」を活用し、同じ部分をもつ漢字を探す。</p>	<p>【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。（(1)エ）</p> <p>【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字の読み書きに取り組み、学習課題に沿って、同じ部分をもつ漢字を見つけようとしている。</p>
6月	お話を 読み、すきな ところを つたえよう スイミー 9時間（読⑨） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■物語を読み、好きな場面について伝え合う。	1~2 3~4 5~7 8	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P67を見て、どのような物語かを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 教材文を読み、五つの場面を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面の出来事を確認する。 <p>3 言葉に着目して場面の様子を思い浮かべる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーがしたことや見たもの、思ったことを表す言葉を見つけながら読む。 ・たとえを使った描写のおもしろさを想像しながら読む。 ・それぞれの場面でのスイミーの様子が伝わるように、音読する。 <p>4 好きな場面とその理由を書き、友達と伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝え合うときは、P79の「話し方のれい」を参考にする。 	<p>【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)エ）</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） <p>【態】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。</p>

2年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		9	5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
6月	かん字の ひろば① 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ◎助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵を説明する文を書く。	1~2	1 P154「これまでにならったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P81の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って、島の様子を表す文を書く。 3 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。
6月	【じょうほう】メモを とる とき 3時間（書③） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができます。（思・判・表B(1)ア） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ☆気づいたことや分かったことをメモする活動（生活科、学校生活）	1 2~3	1 学習の見通しをもつ。 ・メモの必要性、有効性について経験を出し合う。 2 P83の例を基に、メモを取るときに気をつけることを確認する。 3 実際に、学校のことを家人などに知らせるためのメモを取る。 ・自分で読み返す。 ・書いたメモを友達と見せ合い、お互いのよいところを伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・メモを取るときに気をつけたいことをまとめ	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に必要な事柄を集め、これまでの学習をいかして知らせたいことをメモに取ろうとしている。
6月 ~ 7月	組み立てを 考えて 書き、知らせよう こんな もの、見つけたよ 【コラム】丸、点、かぎ 10時間（書⑩） ◎句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ■自分が見つけた「いいな」と思うものを友達に伝える文章を書く。 ☆身近な地域の特色や行事、施設などに目を向けさせる題材（生活科） ☆見つけたものを撮影する活動（ICT活用）	1 2~4 5~6 7~9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・生活科の町探検などで見つけたものを共有し、いいなと思ったものを話し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P85のメモ例を参考に、見つけたものや尋ねて分かったことなどをメモに取る。 ・P82「メモをとるとき」の学習内容を活用する。 ・メモを見直して、見つけたもののよさを伝えるのに必要なことを付け加える。 3 メモを基に、文章の組み立てを考える。 ・P86の組み立て例や、「組み立てを考えるときは」を参考に、「はじめ」「中」「おわり」にそれぞれ何を書くかを考える。 ・P163の「図をつかって考えよう」を活用し、順序を入れ替えながら確認する。 4 組み立てメモを基に文章を書き、読み返して推敲する。 ・P89コラム「丸、点、かぎ」を参考に、書いたものを読み返し、間違いなどを正す。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・初めて知ったことや分かりやすかったところなどを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ） 【態】事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え、学習の見通しをもつて、読み手に分かりやすく伝える文章を書こうとしている。
7月	あいての考えを引き出す しつもんをしよう あつたらいいな、こんなもの 7時間（話・聞⑦） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができます。（知・技(1)オ） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表	1 2 3~5	1 学習の見通しをもつ。 ・あつたらいいなと思うものを考える。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 あつたらいいなと思うものを考えて、絵に描く。 ・描いた絵に簡単な説明をメモしておくよい。 3 友達がどんなものを考えているのか、詳しく知るための質問のしかたを考える。 ・P92「しつもんをするときは」や動画を参考に、どんなことを質問すれば効果的か考える。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)エ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感

2年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	A(1)エ ■質問をし合うことを通して考えをまとめる。	6~7	4 友達と質問し合って詳しく考える。 ・働きや作りについて質問されて答えたことは、自分の絵に付け加えておく。 5 考えたものをグループで発表し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	想をもつていて。(A(1)エ) 【態】話し手が知らせたいことを落とさないように粘り強く聞き、学習課題に沿って質問をし合って考えをまとめようとしている。
7月	夏がいっぱい 2時間 (書②) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができます。(知・技(1)オ) ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができます。(思・判・表B(1)ア) ■夏を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、夏のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材 (道徳、生活科) ☆夏らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動 (音楽) ☆夏を感じるもの撮影 (ICT活用)	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「みんみん」の詩を読む。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた夏を感じるものカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。 4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。 ((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 ((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
7月	本はともだち お気に入りの本をしようかいしよう ミリーのすてきなぼうし 6時間 (読⑥) ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■お気に入りの本を紹介し合う。 ☆お気に入りの本を探す活動 (図書館活用)	1 2 3~4 5~6	1 学習の見通しをもつ。 ・「お気に入りの本をしようかいしよう」という学習課題を知り、学習の進め方を確認する。 ・読書カードなどを使ってこれまでの読書生活を振り返り、どんな本が好きかを考える。 2 友達に紹介したい本を選ぶ。 ・学校図書館などで、実際に本を見ながら選ぶ。 3 紹介メモの書き方を確かめる。 ・「ミリーのすてきなぼうし」を読む。 ・「ミリーのすてきなぼうし」を紹介するメモ (P99) を参考に、書き方を確かめる。 4 自分の選んだ本で紹介メモを書く。 5 P100の紹介例を参考に、友達と本を紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「読書にしたしましたために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 ((3)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 (C(1)カ) 【態】進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。
9月	雨のうた 2時間 (読②) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○詩を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■様子を想像しながら音読して、詩を楽しむ。	1 2	1 雨のイメージを出し合い、音を想像する。 2 詩を音読し、好きなところについて話し合う。 3 好きなところのよさが伝わるように、詩を音読する。 4 友達の音読について、よかったところを伝え合う。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 ((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。 (C(1)カ) 【態】粘り強く語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読し、これまでの学習をいかして詩を楽しんで読もうとしている。
9月	ことばでみちあんない 3時間 (話・聞③) ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ) ■友達と道案内をし合う。	1 2 3	1 P116の「みどりさん」の道案内をしたかについて考える。 ・分かりにくいところとその理由を話し合う。 ・自分だったらどんな言葉を使って案内するかを考え、分かりやすい説明のポイントを見つける。 ・友達の案内を聞いて地図をたどってみる。案内 ^{ゆき} なみ ^{なまけ} で ^て 地図 ^{ちず} か ^き よ ^う 2 グループで道案内をする。 ・実際の場所を目的地にして、道案内をしてみてもよい。 3 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 (A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。 (A(1)エ) 【態】話す事柄の順序を粘り強く考え、学習課題に沿って相手を目的地へ導く ^{みちくわ} 道案内 ^{みちあんない} を ^{して} 行 ^は く。
9月	みの回りのものを読もう 2時間 (読②) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表A(1)エ)	1	1 P118の写真や絵を見て、身の回りにある標識や看板、ちらしなどの媒体を思い出す。 2 ②から②それぞれの写真に写ったものが何を伝えているかを考える。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。 ((1)エ) 【思・判・表】

2年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	C(1)ウ) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。 (知・技(1)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 (思・判・表C(1)オ) ■身の回りの情報を集めて整理する。 ☆町探検（生活科） ☆見つけたものの撮影（ICT活用）	2	3 それぞれの工夫を見つける。 ・情報を迅速・的確に伝えるためという観点からの工夫にも気づくようする。 4 身の回りの標識や看板などを探して、何を伝えているかを考える。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） 【態】積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。
9月	書いたら、見直そう 2時間（書②） ○文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)エ） ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）	1 2	1 普段の生活を振り返り、書いたものを見直すことの大切さを実感する。 2 P120の「はやしさんが、はじめに書いた手紙」を読んで、間違いや分かりにくいくらいを個々 3 P121の書き直した手紙を見て、直したところを確かめる。 4 P121下段の文章を書き直す。 ・書いたものを見直す習慣をつける。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（B(1)エ） 【態】進んで文章を読み返し、学習課題に沿って間違いなどを正そうとしている。
9月	かん字のひろば② 2時間（書②） ○第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の言葉を使って、日記を書くように文章を書く。	1~2	1 P154「これまでにならったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P122の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って1週間の日記を書く。 3 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして日記を書こうとしている。
9月	読んで考えたことを 話そう どうぶつ園のじゅうい 10時間（読⑩） ○文の中における主語と述語の関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■説明的な文章を読んで、考えたことを話す。 ☆働くことの価値や意味を理解する精神や、身近な動物に優しい心で接する態度を養う題材（道徳、生活科）	1~2 3~4 5~7 8~9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・P123を見て、動物園や獣医について知っていることや知りたいことを出し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立て 2 教材文の内容を表に整理してまとめる。 ・いつ、どんな仕事をしているか確かめる。 3 筆者の仕事について、読み深める。 ・その仕事をする理由や工夫を見つける。 ・毎日することと、この日だけにしたことを分けて捉え、違いについて話し合う。 4 読んで、気づいたことや考えたことをまとめる。 ・獣医の仕事について自分の知識や体験と比べ、発見したことや驚いたこと、もっと知りた 5 書いたものを発表し、感想を伝え合う。 ・まとめたものをグループで共有し、いろいろな気づきや考え方があることを知る。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語の関係に気づいている。（(1)カ） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） 【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、これまでの学習をいかして、文章を読んで考えたことを友達と話そうとしている。
9月	かたかなのひろば 2時間（書②） ○片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の中の言葉を使って、文を作る。	1 2	1 P135の絵の中の片仮名で書かれた言葉を読む。 1年生で習った片仮名の書き方の復習をする。 2 絵や「れい」を見ながら、片仮名を使った言葉を考え、文を作る。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで片仮名を使って書く語を見つけ、学習課題に沿って文を書く
9月	ことばあそびをしよう 2時間（知・技②） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■言葉遊びを楽しむ。	1 2	1 これまでにしたことのある言葉遊びを思い出し、言葉を楽しむ学習のイメージをもつ。 2 「数え歌」「ことばあそび歌」を声に出して読む。 ・徐々に声を大きくしながら読んだり、速さを 3 「いろは歌」を音読みし、リズムを楽しむ。 4 「いろはがるた」や地域に伝わるかるたなどを用いて、かるた遊びをする。	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【態】進んで、言葉の豊かさに気づき、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。

2年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
10月	なかものことばとかん字 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにことができる。（知・技(1)才） ◎第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 P138-139の言葉を使って、仲間の言葉と漢字を確かめる。 2 グループで仲間の言葉を集め、言葉の仲間分けクイズを作るなどして交流する。 ・漢字を使って書けるものは、漢字を使う。	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（(1)才） 【態】進んで、言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って仲間の言葉を集めよう
10月	かん字のひろば③ 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ◎助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語との継ぎ方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵を説明する文を書く。	1～2	1 P154「これまでにならったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P140の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って小学校の様子を文に書く。 ・文を作る際、「は」や「を」が正しく使っているかを確かめる。 3 書いた文や文章を友達と読み合う。	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との継ぎ方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文章を書こうとしている。